

## 修理工事こぼれ話⑤ 三の神殿妻飾の彫刻

今月の工事報告で三の神殿の妻飾の写真を掲載しました。寺社建築では彫刻によって壁面や部材表面を彩ることが良く行われており、それらの彫刻は「建築彫刻」や「大工彫刻」と呼ばれています。

建築彫刻は、ただ単に建物を視覚的に彩るために設けられているだけではなく、彫刻された植物・動物・人間などのモチーフが持つ象徴的な意味によって、その建物の価値を高めているものもあります。

今回は、三の神殿の妻飾の動植物のモチーフについて紹介します。

### 1. 北面妻飾の動・植物の彫刻

工事報告でも紹介したように、この彫刻は唐獅子と牡丹です。



三の神殿 北面妻飾 牡丹と唐獅子の彫刻部分拡大

唐獅子は良くみられる彫刻で、ライオンをモデルに生み出された霊獣で、聖域の守護獣とされてきました。霊獣とは、広辞苑によると、「尊く不思議なけもの。祥瑞の獣。麒麟などの類。」とのこと。「唐獅子」「麒麟」以外では、「龍」「狛犬」も霊獣です。

参考文献によると図像的特徴は、四足で、掌は猫科の形をし、四本の爪をもち、体毛がカールし、尾の先端は火炎状で、鼻は上唇の上にあります、鼻梁が高く先端は平らで三角形をなし、下辺の左右に鼻孔があるとなっています。三の神殿北面の彫刻は、鼻の形は参考文献の説明と一致しませんが、他の箇所は一致するので唐獅子とみなしてよいと思われます。

唐獅子とともに配置されている植物は牡丹になります。参考文献によると牡丹の図像的特徴は、花は多弁で大きく、掌状で大きく深く3つに裂けた葉の形となっています。

牡丹と組み合わせられる動物ということが、三の神殿に彫られている動物の彫刻を唐獅子とみなしている根拠の一つにもなっています。動物と植物の組み合わせには一定の決まりがあり、「鹿に紅葉」「虎に竹」「鳳凰に桐」「鶴に松」「梅に鶯」「波に龍」「月に兔」

などがありますが、「牡丹に唐獅子」もその一つであるからです。富貴の象徴とされた牡丹と聖域の守護獣である唐獅子との組み合わせは吉祥の図柄とされてきました。

## 2. 南面妻飾の植物の彫刻

南面の植物のモチーフについては、何の植物なのかの断定はできませんでした。



三の神殿 南面妻飾 植物の彫刻部分拡大

草花よりかは樹木のような形をしており、葉は1枚につき5箇所裂けた形をし、それぞれの先端は尖り、葉脈は中央の葉脈から枝状に伸びている形状であり、花は細い花弁が放射状に並んでいます。

一番近いものは菊です。菊の図像的特徴は参考文献によると、長楕円形の小さな花弁が放射状に並び、先端が5つに裂け、尖らない葉の形をしているとなっています。花の形は菊が一番近いので菊の可能性が高いように感じましたが、三の神殿の彫刻では、葉の先端がとがっている点と、菊だと茎にあたる箇所が樹木の幹のような形になっている点で、菊だとは断定してよいものかという印象があります。しかし、決められたサイズに収めるために茎をこのようにデザインしたのかもしれない、そうすると葉の先端の形のちがいにのみになるため、菊とみなしてもよいのかもしれない。

ちなみに菊は、その生命力の強さから古くより延命長寿の仙薬とされたこともあり、彫刻や様々な装飾文様のデザインとして使用されてきました。

今回は、具象的な彫刻を紹介しました。具象的な彫刻には、三の神殿の彫刻のように動・植物やその組み合わせが象徴的意味としてなしているものもあれば、中には中国の故事などをモチーフにしたものもあります。寺社建築の彫刻は、その姿・形だけでなく、それに内包された意味も時には重要なのです。 (石田 陽是)

参考文献 福住治夫編『大工彫刻—社寺装飾のフォークロア (INAX BOOKLET)』INAX,1986

高藤晴俊『図説 社寺建築の彫刻—東照宮に彫られた動植物』東京美術,1999